

問合せ先

警備救難部 国際刑事課

課長 補佐 竹内(たけうち):密輸担当

不法入国対策官 井手(い で):密航担当

Tel 03 - 3591 - 6361(内線)5501、5502

直通 03 - 3581 - 1701

平成22年1月27日

海上保安庁

平成21年における密輸及び密航取締り状況について

密輸関係

末端価格約120億円に上る

大量覚せい剤密輸入事件を摘発！

高知室戸岬沖中国漁船Z号覚せい剤密輸入事件

平成21年2月、高知県室戸岬沖において、中国漁船から降ろされた小型ボートを使用して高知県内の椎名漁港で陸揚げした、中国人船員及び荷受側の中国人と日本人が関与した大量の覚せい剤密輸入事件を摘発した。

押収した覚せい剤は、約120キログラム(末端価格約120億円)であった。

下図のように、監視が手薄な地方漁港を狙って、母船に搭載してきた小型ボートを使用して大量の覚せい剤を陸揚げし、来日した海外組織関係者が受け手となり、直接、暴力団関係者が密輸に関与しない手法が認められた。



検挙した中国(香港)籍漁船



密輸に使用された小型ボート



## 密航関係



## 九州北部を舞台として続発する密出入国事犯

平成21年における日本と韓国にまたがる密出入国事犯の摘発状況は上図のとおりである。

手口としては、高速小型船を使用したもの、日韓双方の小型船同士が洋上で会合し、密出入国者の受け渡しを企てるもの等、小口化・巧妙化が進んでいる。



暗夜、高速で逃走する密航船



摘発された密航者

## 密輸取締り状況

### 1. 取締り状況（参考資料「最近における薬物・銃器事犯の摘発状況等」参照）

- (1) 平成21年の薬物・銃器事犯の摘発件数（注<sup>1</sup>）は16件であった。
- (2) 平成21年に当庁が関与した薬物の摘発件数（注<sup>1</sup>）は、13件であり、覚せい剤約136.96kg等を押収した。（平成20年に比べ、8件の減少）
- (3) 銃器の摘発件数（注<sup>1</sup>）は、3件であり、銃砲4丁及び散弾実包32発を押収した。（平成20年に比べ、2件の増加）

### 2. 特徴

#### 覚せい剤密輸ルートの多様化

平成21年においては、ロシア人船員を運搬役とした携帯密輸を相次いで摘発（事例1、2参照）するなど、これまで認められていなかったロシアからの入港船舶を利用した北方ルートによる覚せい剤密輸入事件が出現し、最も儲かる覚せい剤市場と言われる日本を狙ったロシア人による覚せい剤密輸事犯の増加が懸念される。

また、平成21年2月の母船から降ろされた小型ボートを使用した覚せい剤約120キログラム密輸入事件をはじめとして、従来からの中国（香港）を経由する南方ルートによる覚せい剤密輸事件を摘発するなど、密輸ルートが多様化している。

#### 事例1 ロシア人による覚せい剤密輸入事件

7月15日、新潟海上保安部等は、税関と合同で新潟県新潟東港に入港したロシア来船舶を監視中、同船のロシア人乗組員1名が下船後、受取人と思われるロシア人と接触したことから両名に対し所持品検査を実施したところ、覚せい剤約4.7kgを発見、押収し、両名を覚せい剤取締法違反（共同所持）で現行犯逮捕した。

#### 事例2 ロシア籍貨物船B号乗組員に係る覚せい剤密輸入事件

11月9日、小樽海上保安部等は、税関から、小樽港に入港したロシア籍貨物船B号から上陸したロシア人乗組員に対して職務質問を実施後、船内から覚せい剤2袋（約1.1kg）を発見したとの通報を受け、その後、警察、税関と合同で船内捜索を実施したところ、同人が使用するベットの枕元から新たに覚せい剤2袋（約1.9kg）を発見、警察が同人を覚せい剤取締法違反（不法所持）で現行犯逮捕し、12月1日、同人を覚せい剤取締法違反（営利目的輸入）で再逮捕した。

#### 依然として高い、ロシア人船員の関与率

薬物・銃器事犯においては、従来からロシア人船員が関与した事件数が全体の多くを占めていたところ、平成21年にあっても総摘発件数16件の5割強を占める9件にロシア人船員が関与していた。

この9件中8件が薬物事犯であり、6件が船内の居室等に大麻を隠匿していた大麻所持事件、2件がロシア人船員の着衣や所持品の中に覚せい剤を隠匿して陸揚げするという携帯型の覚せい剤密輸入事件、残り1件が銃

注<sup>1</sup>：海上保安庁が単独又は他機関と合同で摘発した事件の数

器事犯で、船内居室ロッカー内に空気銃を隠匿していた所持事件であった。  
(事例3参照)

摘発の端緒としては、総摘発件数の4割以上である7件を外国籍貨物船に対する立入検査により船内から摘発している。

ロシア人船員の関与率が高い理由としては、ロシア船に対する徹底した立入検査等取締り体制の強化に加え、ロシア人船員の法令順守の意識の低さやロシア国内での大麻等の入手の容易さが主な要因として考えられる。

一方で、平成20年の摘発事件の大半を占めていたロシア人船員による大麻所持事犯の摘発件数が減少した。その理由として、ロシアからの非鉄金属等の輸入の減少やロシア国内における外国製自動車関税の大幅引き上げによる日本からの中古自動車等の輸出の減少により、これまで日本海側の主要な港とロシアを往復していた貨物船の入港隻数が大幅に減少したことが要因の一つとして考えられる。

以上のことから、我が国への薬物・銃器の流入を水際で阻止するためには、引き続きロシア人船員による犯行には十分警戒するとともに、周辺国の薬物取締機関等との一層の連携協力が必要である。

#### ・ロシア人船員が関与した薬物・銃器事犯の摘発件数

年	薬物事犯	銃器事犯	合計	総摘発件数
平成17年	7	1	8	9
平成18年	13	1	14	22
平成19年	16	4	20	31
平成20年	14	0	14	22
平成21年	8	1	9	16

#### 事例3 ロシア籍貨物船N号乗組員に係る空気銃不法所持事件

7月6日、宮城海上保安部は、税関と合同で、仙台港に入港したロシア籍貨物船N号に対する立入検査を実施したところ、ロシア人乗組員居室内に設置されたロッカーから空気銃1丁、机の引出しから金属製弾丸812発を発見・押収し、7月7日、同人を銃砲刀剣類所持等取締り法違反(空気銃の不法所持)で通常逮捕した。



押収した空気銃



押収した空気銃用の金属製弾丸

### 3. 薬物・銃器以外の密輸事件

その他、薬物・銃器以外の密輸として、約240キログラム（時価約3,300万円）のうなぎ稚魚を韓国に向けて不正輸出した事件を摘発した。

#### 事例4 韓国向けうなぎ稚魚不正輸出事件

4月9日、門司海上保安部等は、税関と合同で、山口県下関市の港において、輸出が規制されている「うなぎ稚魚」約240キログラム（時価約3,300万円）を活魚運搬車に積載し、大韓民国向けフェリーに船積みしたとして、魚類卸売業者等関係者7名を外国為替及び外国貿易管理法違反（無承認輸出）で逮捕した。

うなぎ稚魚は、手長だこの入ったいけすの下層に巧妙に隠されていたもの。



活魚運搬車の捜査状況



押収したうなぎ稚魚

#### 参考資料

最近における薬物・銃器事犯の摘発状況等

最近の主な薬物・銃器事犯摘発の状況

## 最近における薬物・銃器事犯の摘発状況等



### 1. 薬物事犯の摘発状況

区分	年別	16年	17年	18年	19年	20年	21年
摘発件数(注)		16	8	20	25	21	13
押  収  量	覚せい剤	109.8kg	0	9.6kg	51.4kg	308.38kg	136.96kg
	大 麻	0.2kg	0.3kg	12.4kg	0.08kg	0.023kg	0.008kg
	麻 薬	0.002kg 4997錠	0.002kg	0	0.0002kg	0.0003kg	0
	あ へ ん	0.0004kg	0	0	0	0	0

(注) 当庁が単独又は他機関と合同で薬物を摘発した事件の数(2も同様)

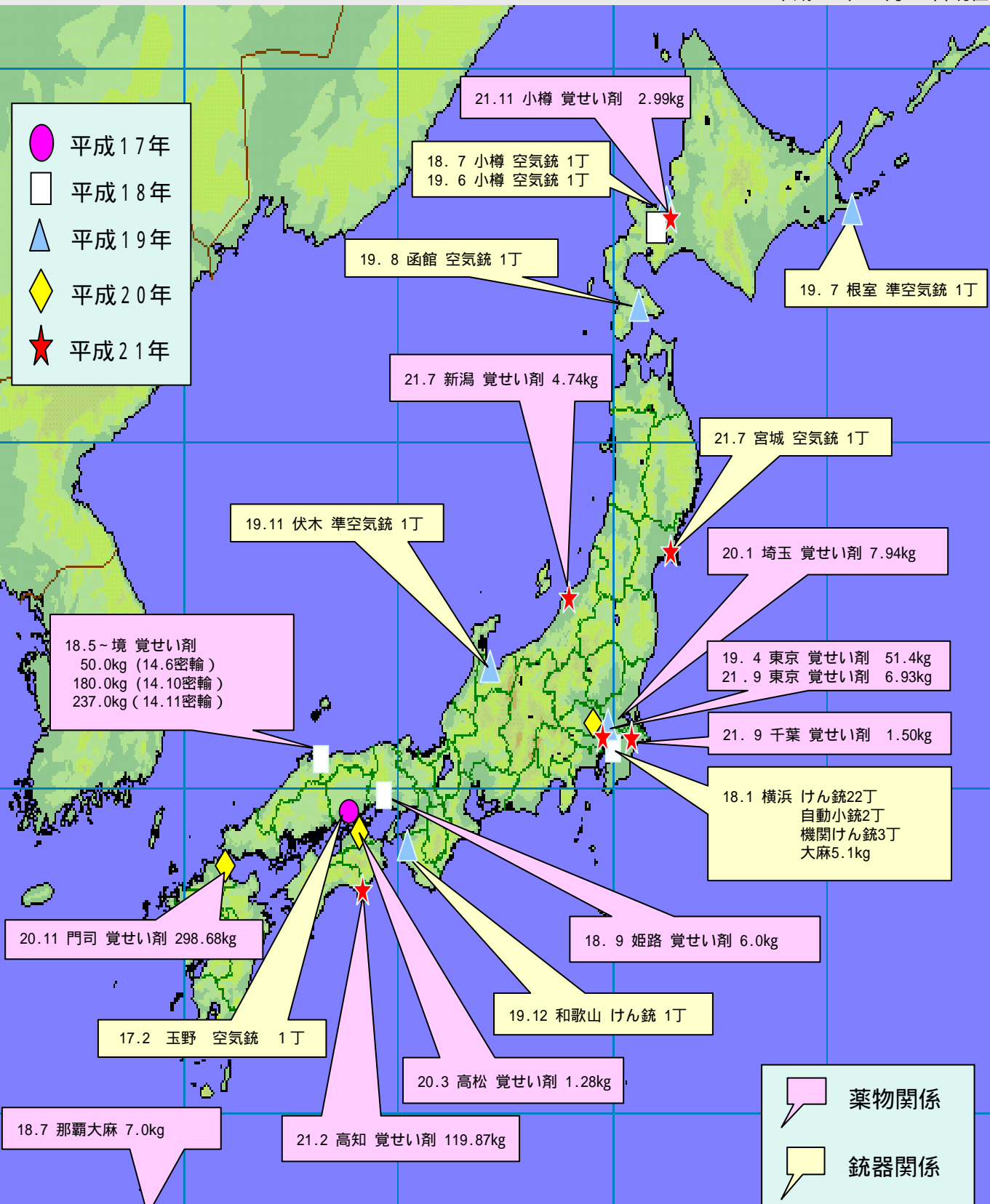
### 2. 銃器事犯の摘発状況

区分	年別	16年	17年	18年	19年	20年	21年
摘発件数(注)		3	1	2	6	1	3
押  収  量	銃砲(丁)	1	1	28	3	0	4
	けん銃	1	0	22	1	0	0
	準空気銃等	0	0	0	3	0	0
	実包(発)	6	0	791	0	1	32

模造けん銃を含む

# 最近の主な薬物・銃器事犯摘発の状況

平成21年12月31日現在



掲載事犯は、薬物1kg以上、銃器1丁以上の摘発事犯に限る。

## 密出入国取締り状況

### 1. 取締り状況（参考資料「船舶利用の不法出入国事件摘発状況」参照）

平成21年に当庁が摘発（警察と合同で摘発したものを含む。以下同じ。）した船舶利用の不法出入国事件は5件、不法入国者は11名、不法入国手引者は2名、不法出国者は4名、不法出国手引者は3名であり、平成20年と比べ、摘発件数は4件減少、不法入国者が3名、不法出国者が1名増加し、不法入国手引者が17名、不法出国手引者が7名減少した。

### 2. 特徴

高速小型船を洋上で初めて捕捉し韓国人及びイラン人密航者等を逮捕

退去強制歴を有する外国人や我が国に不法滞在する外国人は、我が国の出入国審査を通過できず、空港等における指紋等個人情報識別システムによる摘発を免れるため、国内外の密航ブローカーに依頼し、船舶による不法出入国を繰り返す実態が判明している。

これら船舶による不法出入国事犯については、貨物船に少人数で潜伏するもの以外に、特に韓国とは近距離であることから、高速小型船により離島を含む九州北部と短時間で行き来する手口が顕在化している。

平成21年においては、密航者を乗せた高速小型船を初めて捕捉し、韓国人とともに不法入国したイラン人を逮捕した。イラン人に関しては平成20年にロシアルートによる不法入国事件を摘発しているが、平成21年においては韓国ルートにより我が国へ不法入国する実態が明らかとなった。

#### 事例1 韓国籍高速小型船による韓国人等不法入国事件

7月3日、密航情報に基づき荒天下の深夜、警戒中の当庁巡視艇が、長崎県壱岐島北方海域を南下する高速小型船を視認。停船命令を発したところ反転・逃走開始したためもう1隻の巡視艇と連携して追跡し、長崎県対馬市厳原沖にて停船させた。同船船内において韓国人男性2名（船員）、韓国人女性5名及びイラン人男性2名を発見。対馬海上保安部は、韓国人女性及びイラン人男性を不法入国容疑で、韓国人男性2名を集団密航助長容疑で逮捕した。



韓国籍高速小型船「南海」号



摘発された密航者

日韓間の連携により、洋上で密航者を引き渡す手口の事件を摘発

韓国人による不法出入国はこれまで貨物船や高速小型船により直接本邦の港において密航者を上陸させるものが主であったが、平成21年には漁船等の小型船で日韓双方の地方港を出港し、洋上で会合のうえ密航者を相互に引き渡す手口が明らかとなった。



## 事例2 日本籍船による韓国人不法出国事件

9月10日、門司海上保安部及び下関海上保安署が密航容疑船として動静留意していた日本籍船の第二雅（みやび）丸が、定係地に係留されておらず、また、同日韓国において、日本へ向け船舶で密航を企てた男女7名及び密航斡旋者4名が逮捕されたとの情報を入手した。その手口が公海上において日韓双方から出港した船舶が会合し密航者を受け渡すとの情報であったことから、下関海上保安署が警察とともに第二雅丸の入港を待受け、帰港した同船に乗船していた韓国人女性2名を不法出国企図容疑で、第二雅丸船長（日本人男性）及び現場に現れたブローカー（韓国人男性）を不法出国企図幫助容疑で逮捕した。



日本籍船「第二雅丸」



摘発された密航者

## 3. その他の手口による不法出入国事件

偽造した船員手帳により貨物船に乗船し不法入国する手口の事件を摘発した。中国国内における船員不足が背景にあるものと考えられる。

### 事例3 キリバス籍貨物船による中国人乗組員不法入国事件

1月25日、門司海上保安部苅田海上保安署は、苅田港に入港したキリバス籍貨物船「XING GUANG 5」の立入検査を実施し乗組員の船員手帳等を精査したところ、うち1名（中国人）の船員手帳について偽造の疑いを認め、同人を不法入国容疑で逮捕した。



キリバス籍貨物船「XING GUANG 5」

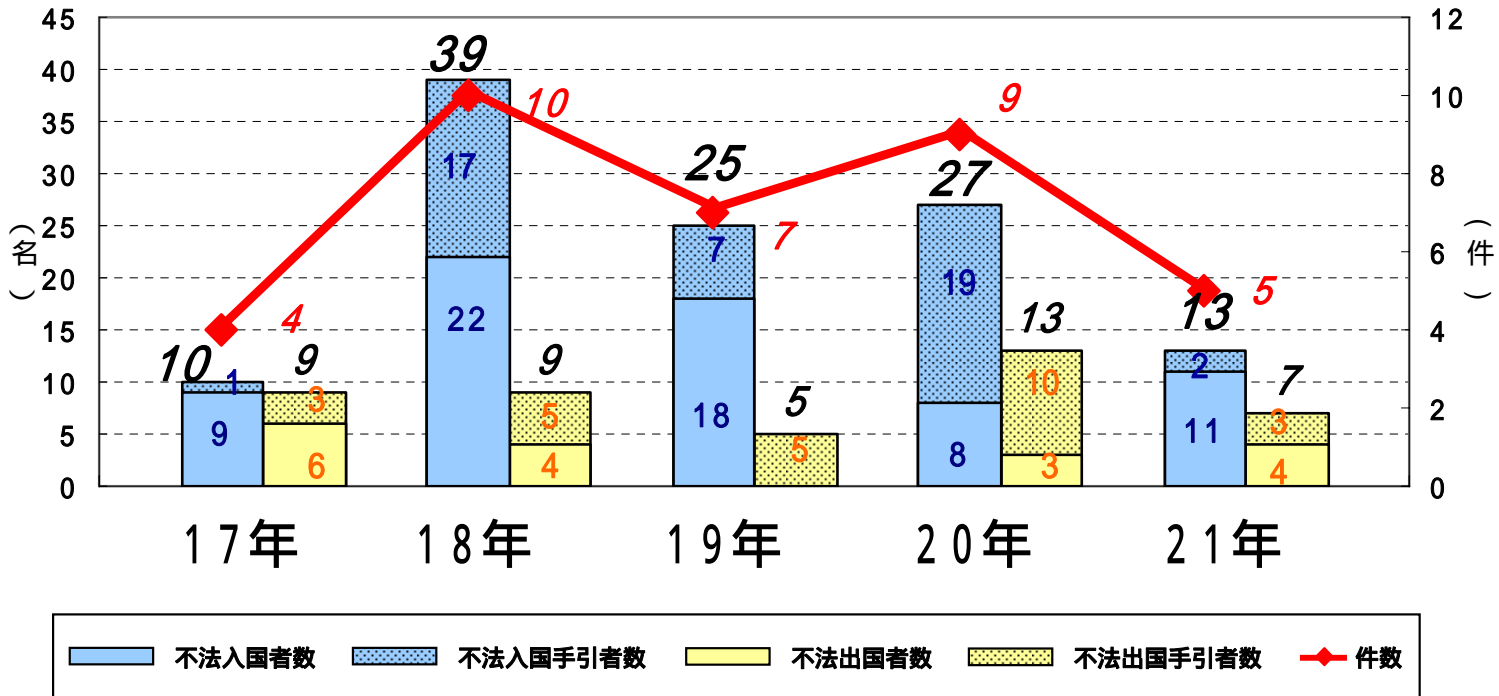


使用された偽造船員手帳

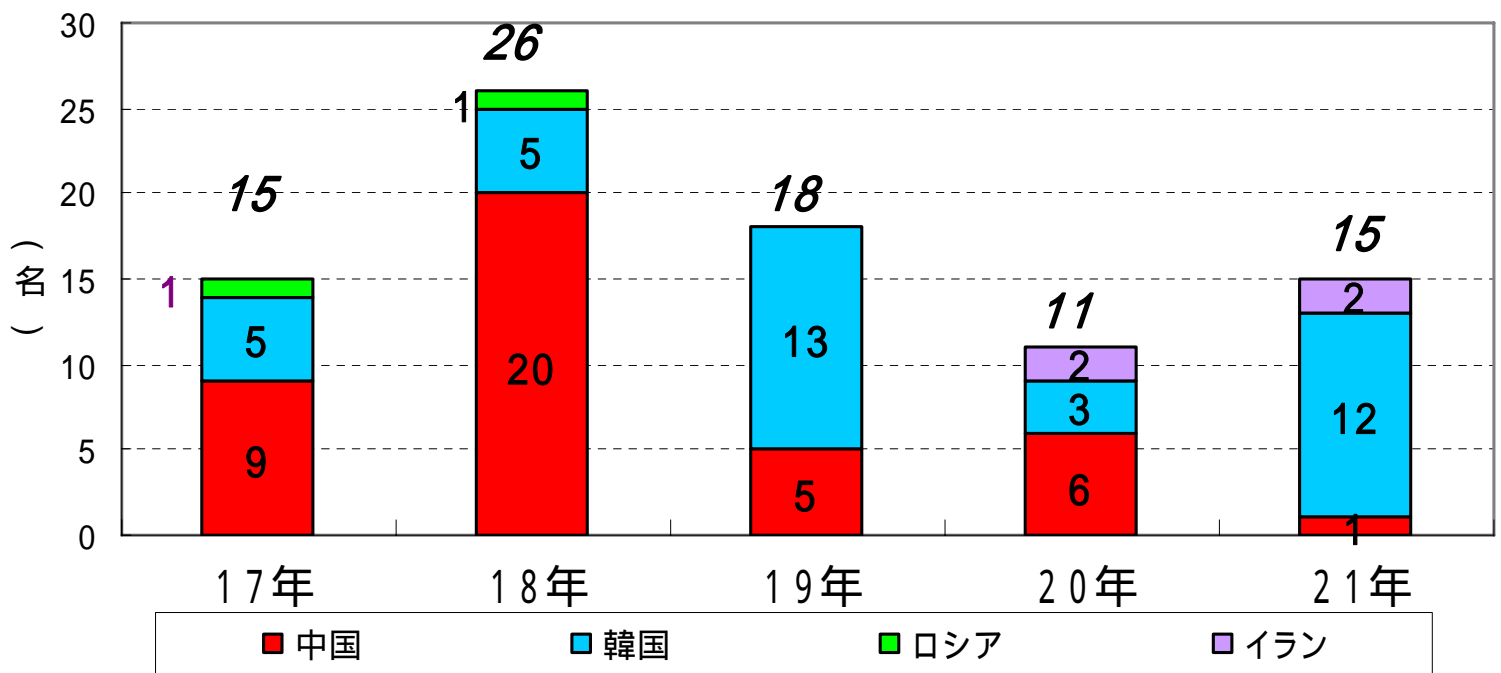
## 参考資料

船舶利用の不法出入国事件摘発状況

## 船舶利用の不法出入国事件摘発状況



## 船舶利用の不法出入国者国籍別摘発状況



(注) ・表の数値は海保単独又は警察と合同で摘発したものを示す

・不法入国者数には不法上陸者数を含む